

**1. 基本情報**

- (1) 国名：インド
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ミゾラム州
- (3) 案件名：ミゾラム州がん病院・研究センター整備計画 (Project for Establishment of Mizoram State Super-Specialty Cancer and Research Centre)
- (4) 計画の要約：

本計画は、インド国内でも特にがんの発生率と死亡率が高いミゾラム州において、がん治療及び研究拠点となる医療施設を整備し、同拠点を中核とした地域のがん対策の体制を構築することにより、同地域の住民に対し、がん対策のための予防、検診、治療について州内で十分なアクセスを提供するとともに、地域のがん対策を支える人材育成と研究を推進し、もって同地域の保健医療体制の強化を通じたユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に寄与することを目的とする。

**2. 計画の背景と必要性**

- (1) 本計画を実施する外交的意義

インドは、我が国と民主主義や人権、法の支配といった基本的価値を共有する世界最大の民主主義国である。また、インド洋シーレーンの中央に位置するインド太平洋における重要なプレーヤーであり、我が国が掲げる「自由で開かれたインド太平洋」の鍵となる国である。日本とインドは特別戦略的グローバル・パートナーシップの関係にあり、首脳間の年次相互訪問も行われている。2018年10月のモディ・インド首相訪日時には、両首脳は、「日印の共通のビジョンに基づき、自由で開かれたインド太平洋に向けて協働していくという揺るぎない決意」を改めて確認しており、両国の関係強化は着実に進んでいる。円借款をはじめとするODAを通じて、インドの経済社会開発を支援することは、我が国の外交上、非常に重要である。

加えて、インド政府は、インドから東南アジアへの連結部分となるインド北東部を重視するアクト・イースト政策を提唱しており、日本に対しては、北東部開発におけるパートナーとなって欲しいとの強い期待を示している。インド北東部支援の推進は累次の日印首脳会談で合意しており、2017年9月の日印共同声明では、両首脳は、「日本の「自由で開かれたインド太平洋戦略」とインドの「アクト・イースト政策」を連携させる」取組を強化することを誓うとともに、「日印アクト・イースト・フォーラム」立ち上げに満足を持って留意し、2018年10月の日印首脳会談では同フォーラムを通じた北東部の発展に向けた進展を歓迎した。本計画は、「自由で開かれたインド太平洋」とアクト・イーストが収れんするインド北東部への支援を具体化するものであり、実施の意義は大きい。

- (2) 当該国における保健セクター／ミゾラム州の開発の現状・課題及び本計画の位置付け

インド政府は、保健セクターにおいて、国家保健プログラム (National Health Mission) 等の国家プログラムを策定しその実施に取り組んできており、幼児死亡率や妊産婦死亡率等は改善が図られてきている。他方、経済発展に伴う生活習慣の変化等により、がんや糖

尿病、心血管疾患等の非感染症疾患（NCDs）がインドの保健分野の大きな課題となっており、インドにおける NCDs による死亡割合は 60%を超える（印政府、2016）。特にがんの年間発生件数は 1990 年の約 55 万人から 2016 年の約 110 万人の約 2 倍に増加し（The Lancet、2018）、また 5 年生存率が約 3 割（The Lancet、2014）と、日本の約 6 割（国立がん研究センター、2019）と比較しても低く、がんに対する医療サービスの提供体制の整備は喫緊の課題となっている。

かかる状況下、インド政府は 2010 年に NCDs 予防・対策のための国家プログラム（National Program for Prevention and Control of Cancer, Diabetes, Cardiovascular diseases and Stroke）を策定し、医療インフラ強化や早期発見の促進等を通じ、がんに対する医療体制の改善に取り組んでいる。しかしながら、インドでは人口増加や高齢者の増加、経済発展に伴う生活習慣の変化等に伴い、今後がん罹患者は増加し続けることが予想されており、一層の対策が求められている。

本計画が対象とするミゾラム州（人口：約 110 万人）は 2016 年時点のがんの発生率が全国で 2 番目に高く、死亡率は全国で最も高い（The Lancet、2018）。州政府はこれを同州保健セクターにおける最大の課題と位置付け、新たにがんのスクリーニング等を行うための NCD 診療所の設置を進めるなど、予防啓発及び早期発見等に積極的に取り組んでおり、州内で必要ながん治療が完結できるようながんの予防、検診、治療、人材育成、研究等の総合的ながん対策体制を展開するモデル州となることを目指している。その一方で、現在州内で手術を含めた包括的ながん治療を行うことができる病院はなく、がん治療に有効な放射線治療体制等が整っている病院として既存の州立がん病院が 1 か所あるのみであるが、同病院も十分な施設規模、医療設備、機材及び専門人材を有していない。さらに、州内にはがんの専門教育を行う機関がなく、がん専門人材の育成が進まないといった問題が生じている。このため、州内で検診・治療ができるがん患者数は極めて限られており、州外へ搬送される患者は、身体的、精神的、経済的な負担が大きい他、州政府負担である治療費と移送費は同州の予算を圧迫している。また、同州では、特に肺がん、胃がん等の発生率が国内最悪の水準（印政府、2016）という特徴も有しており、同州におけるがんの特性を踏まえた予防及び治療等についての実践と研究を担う体制整備が必要となっている。

本計画は、インド国内でも特にがんの発生率と死亡率が高いミゾラム州において、がん治療及び研究拠点となる医療施設を整備し、同拠点を中核とした地域のがん対策の体制を構築することにより、同地域の住民に対し、がん対策のための予防、検診、治療について州内で十分なアクセスを提供するとともに、地域のがん対策を支える人材育成と研究を推進し、もって同地域の保健医療体制の強化を通じたユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に寄与するものであり、インド及びミゾラム州の保健セクターにおける重要事業と位置付けられる。

なお、他の JICA 事業との連携として、がんを中心とした NCDs 対策の案件であるインド向け技術協力「タミル・ナド州非感染性疾患対策プロジェクト」で予定されている現地研修および本邦研修にミゾラム州行政官、医師等を派遣することや、同技術協力で育成したタミル・ナド州の行政官および医師による、ミゾラム州への経験共有などを検討する。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

① 計画内容

ア) がん予防・治療・研究等の医療施設の建設・改修及び関連機材整備

イ) コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理、組織能力強化、人材育成、地域がん対策体制構築等）

② 期待される開発効果：がん治療及び研究拠点となる医療施設の整備（病床数：50床→150床、がんに関する専門治療を受けた年間患者数：約1,200人→約5,000人）により、同拠点を中核とした地域のがん対策の保健医療体制強化への貢献が期待される。

③ 借入人：インド大統領

④ 計画実施機関／実施体制：ミゾラム州政府保健福祉局（協力準備調査にて詳細確認）  
他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて詳細確認

⑤ 運営／維持管理体制：協力準備調査にて詳細確認

(2) その他特記事項

● 環境社会配慮カテゴリ分類：B

● ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

● 他の援助機関の対応：世界銀行は、保健医療サービスの質の向上を重視する方針を掲げ、タミル・ナド州にてNCDs対策を主眼とした保健システム改善プログラムへの融資を行っている（2019年～2024年）。

**4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用**

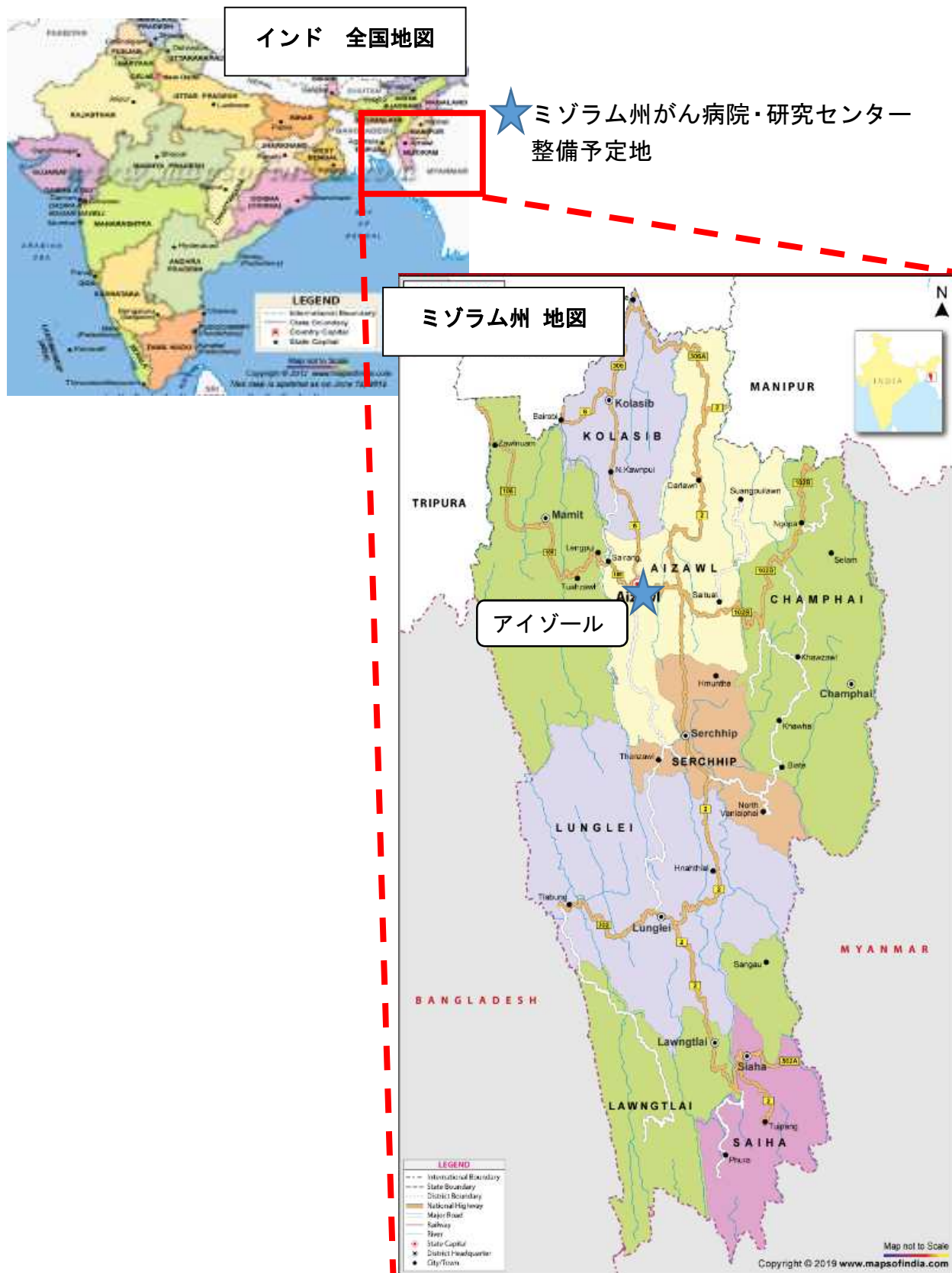
インドネシア共和国向け有償資金協力「国立イスラム大学保健・医学部事業」（評価年度2015年）の事後評価等では、特殊技術を要する機材については、事業形成時に技師の雇用や運用計画を含む調達機材の活用方針を可能な限り明確にしておくことの重要性が指摘されており、本計画においても、協力準備調査段階で技師の雇用計画を含む機材の活用方針を検討する。

以上

[別添資料] ミゾラム州がん病院・研究センター整備計画地図

[別添資料] ミゾラム州がん病院・研究センター整備計画写真

「ミゾラム州がん病院・研究センター整備計画」 地図





「ミゾラム州がん病院・研究センター整備計画」 写真



既存の州立がん病院外観



病棟内の様子